

浜松の民芸運動の現代的評価に向けて

——研究経過報告——

2014年12月4日

黒田宏治（生産造形学科）

阿蘇裕矢（文化政策学科）

県内版

ゆりの実
横井 美智子(磐田市寺谷)



きょうの天気 2日

地域	朝	昼	夜	最高気温	最低気温
浜松	☀️	☀️	☁️	20	21
天竜	☀️	☀️	☁️	20	21
北遠	☀️	☀️	☁️	20	21
磐田	☀️	☀️	☁️	20	21
掛川	☀️	☀️	☁️	20	19
御前崎	☀️	☀️	☁️	10	21
奥大井	☀️	☀️	☁️	10	20
静岡	☀️	☀️	☁️	10	21
三島	☀️	☀️	☁️	20	21

きょうの天気のはり以上、はり未満
6-24時の最高降水確率(%)
最高気温 最低気温 (気象協会調べ)



「トン」「カタン」。

工房に手織の小気味よい音が響く。百年を経るといふ織機は使い込まれて、木枠の角が丸くすり減っている。織りかけのテーブルセンターの端に目を凝らし、縦糸、横糸をあやなしていく平松久子(へこ)。細やかな手足の動きを一人の研究者が追う。

静岡文化芸術大学デザイン研究科教授の黒田宏治(くろだ)が、浜松の民芸運動のルーツともいえる「ざさんざ織」の工房あかね屋(浜松市中区中島)を訪ねたのは、まだ暑さが続く九月初旬だった。



ざさんざ織の絹糸は、双子の蚕が中に入った玉繭から紡ぎ出す。二本の糸が絡み合ったため節があり、太かったり細かったり。糸自体のムラが持ち味となつて、独特の風合いを生む。大正の末まで綿布を織っていた義父の実が、昭和の不況の中、民芸運動を提唱した思想家・柳宗悦との浜松での出会いを通して発案し

第一部 1 二本の糸



玉繭は本来、くず繭だから安価。厚地だが着るほどに柔らかく体になじむ。草木染のアカネをそのまま履身に。「ざさんざ」の名は浜松の松にそよよ潮風にちなんだ。八十四年前のことだ。

黒田には一つの思いが。第一次大戦後の工業の発展と大量生産の時代が、えらげるといふ手技は柳

た。玉繭は本来、くず繭だから安価。厚地だが着るほどに柔らかく体になじむ。草木染のアカネをそのまま履身に。「ざさんざ」の名は浜松の松にそよよ潮風にちなんだ。八十四年前のことだ。

黒田には一つの思いが。第一次大戦後の工業の発展と大量生産の時代が、えらげるといふ手技は柳

ある。静岡文化芸大ができたのは二〇〇〇年。ヤマハ発動機のオートバイなどを手掛けた東京のデザイン研究所から転身し、開学から身を置いて十三

練の手に取って代わり、ちまたには粗製乱造の製品があふれた。名もない職人の手仕事の中にこそ真の美と価値がある。柳

収集の逸品
「柳宗理」特
東京・日本民
東京・駒場の
芸館で、特別展
理の見てきたも
写真」が開か
る。二十一日ま

美の実用を続ける紡ぎ

浜松の民芸運動の起点
手機に向かう平松久子
市中区の工房「あかね

■ 民芸品...



赤波六段蓋 (昭和40年代 川端康成記念会蔵)



■ 民芸運動の流れ

【全国】

26年 「日本民藝美術館設立趣意書」
(柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司ら)

28年 上野博覧会に民芸館を出展

34年 日本民芸協会設立(会長:柳宗悦)

36年 日本民芸館開館(東京・駒場)

・

48年 倉敷民芸館開館(日本で2番目)

・

・

・

～現在、全国各地域に29の民芸館、
30の民芸協会がある。

【遠州・浜松】

92年 浜松・民芸夏期学校

93年 遠州民芸協会設立

02年 浜松・民芸夏期学校(2回目)

※民藝と民芸

旧字？

新字？

「わざ」「芸術」
「種をまく」
「植える」
などの意味
(ポジティブ)

民藝

民芸

書物の虫食いを
防ぐのに使う香草
「草を刈り取る」
などの意味
(ネガティブ)

■ 民芸運動の流れ

【全国】

- 26年 「日本民藝美術館設立趣意書」
(柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司ら)
- 28年 上野博覧会に民芸館を出展

- 34年 日本民芸協会設立(会長:柳宗悦)
- 36年 日本民芸館開館(東京・駒場)
- ・
- 48年 倉敷民芸館開館(日本で2番目)
- ・
- ・
- ・
- ～現在、全国各地域に29の民芸館、
30の民芸協会がある。

【遠州・浜松】

- 27年 柳宗悦を招聘・講演
- 28年 ←建築は遠州大工等
- 31年 「日本民藝美術館」開館

- 92年 浜松・民芸夏期学校
- 93年 遠州民芸協会設立
- 02年 浜松・民芸夏期学校(2回目)

■この研究の目指すところ(目的と方法)

→ 浜松地域における民芸運動情報の掘り起こし、
事業構造評価、近代デザイン史の探究。

文献資料調査

- ・地域資料
自家版、郷土資料等
- ・雑誌古書資料
など

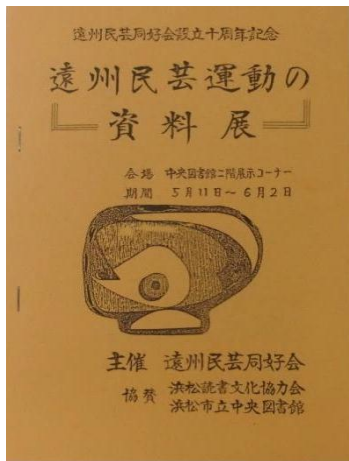
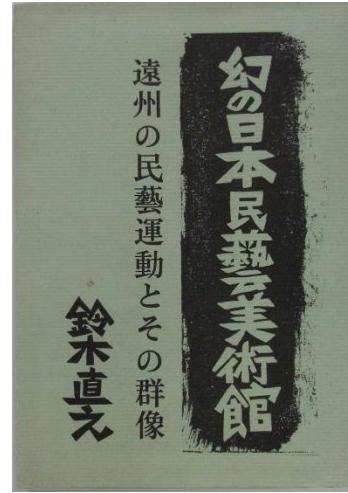
インタビュー調査

- ・郷土史家
- ・民芸関係者
など

他地域事例調査

- ・倉敷
- ・出雲
など

■ 文献資料調査



■インタビュー調査

伊東政好(遠州民芸同好会会長)
→平松實(ざざんざ織創始者)旧知



鈴木直之(郷土史家)
→父親(正一)が高林兵衛と親交



田中信之(元遠州民芸協会事務局長)
→鈴木繁男(柳宗悦に師事)に師事



■他地域事例調査(倉敷)



■ 浜松の民芸運動に関わる動き(年表)

- 大正15年(1926年)～昭和元年
- 4月 『日本民藝美術館設立趣意書』を発表・配布。
(4月1日付、富本憲吉、河井寛次郎、浜田庄司、柳宗悦の4名の連名)
- 発表の後に、浜松市在住の中村精が設立趣意書を受け取る。
- 昭和2年(1927年)
- 1月 柳宗悦が浜松市(尾張町中村家)に招かれ小講演「工芸品の美」を行う(1/12)。
→講演要旨を中村精が浜松仏教会機関誌「開発」に掲載(1/15)。
講演翌日(1/13)、中村精が柳宗悦を積志村(現浜松市有玉)の高林兵衛邸に案内。
* 民藝品の蒐集依頼と和時計等収集品紹介のため。高林は民芸運動に感銘。
- 2月 柳宗悦『工藝の協団に関する一提案』を執筆・配布。
- 3月 京都に上加茂民藝協団発足。→約2年で解散に至る。
→発足後、高林兵衛が、鳥谷成雄(日本楽器)の木工デザイン指導のため協団の黒田辰秋を浜松に招聘。京都に出かけ協団の実態調査を行う。
- 6月 「第1回日本民藝品展覧会」東京銀座・鳩居堂で開催(日本民藝美術館主催)。
この年に、高林兵衛、内田六郎が静岡の芹沢銈介を柳宗悦に引き合わせる。
- 昭和3年(1928年)
- 3月 柳宗悦ら民芸同人、上野公園の御大礼記念国産振興博覧会に「民藝館」を出展。
* 建築は高林兵衛が遠州の大工や瓦職人を連れて上京し陣頭指揮。什器類の製作は主に上加茂民藝協団が担当。
* 博覧会終了後、山本為三郎が「民藝館」を購入し大阪の自邸内に移設(三国荘)。
- このころ、高林兵衛、中村精のすすめで平松実は手織物を始める。
- 昭和4年(1929年)
- 3月 「第2回日本民藝品展覧会」京都大毎会館で開催(日本民藝美術館主催)。
* ここに高林兵衛蔵、内田六郎蔵、芹沢銈介蔵の民芸品も展示される。
- このころ、高林兵衛が旧本宅の古材を活用して自邸内に民藝館を建設。
- この年の秋、浜松市中島町に民芸織物の平松実工房を創設
- * 上加茂協団の青田五良と共同で手織物の研究を行う。両氏は昭和9～10年に作品二人展を東西ギャラリーで開催。

- 昭和6年(1931年)
- 1月 月刊雑誌『工藝』創刊。当初は芹沢銈介が装幀を担当。
- 4月 高林邸内(現浜松市有玉)に「日本民藝美術館」開館(4/18)。
- 中村精、誠心高等女学校に転任。学校に工芸部をつくる。
- 5月 水沢澄夫の手で民芸店「水沢」が東京・京橋に開店。→約半年で閉店に至る。
- 9月 民芸店「水沢」主催で浜松市鴨江寺真言院で「諸国新工芸品展覧会」開催。
- 10月 浜松誠心高等女学校が「染織染色展覧会」を開催。
- * 展示品は「日本民藝美術館」(高林邸内)の所蔵品が主。
- 昭和7年(1932年)
- 1月 高林兵衛出資の民芸店「みなと屋」が東京・銀座に開店。
- * 鳥谷成雄作の木工品等を取り扱う。柳宗悦には不評。約2年で閉店に至る。
- 4月 外村吉之介(山口在住、後の倉敷民藝館館長)、柳悦孝(京都在住、柳宗悦の甥)が平松実工房に入る。
- 6月 民芸店「水沢」主催で浜松市鴨江寺真言院で「第2回諸国新工芸品展覧会」開催。
- 7月 積志村に西ヶ崎工房を設置(外村吉之介、柳悦孝の染織の仕事場)。
- * 高林兵衛の斡旋で元銀行支店建物を工房に利用。
- この年末、浜松市紺屋町に平松実が民芸織物工房「あかね屋」を出店。
- このころより、高林兵衛は民芸運動を離れ、農村医療制度確立に打ち込む。
- * 中心は高林兵衛(積志村産業組合長)、鈴木正一(富岡村産業組合長)。
- 昭和8年(1933年)
- 1月 あかね屋主催による「染織物大展覧会」を浜松商品陳列所で開催。
- * 芹沢銈介、外村吉之介、柳悦孝、平松実が出品。高林兵衛、内山六郎ら推薦文。
- 3月 東京・高島屋で「新興工芸総合展」開催(日本民芸美術館主催)。
- この年夏頃、「日本民芸美術館」(高林邸内)閉館。
- 8月 浜松商品陳列所主催で芹沢銈介を招いて型染講習会開催。

- 昭和9年(1934年)
- 2月 芹沢銈介の東京転出を機に静岡市で芹沢銈介染色作品頒布会開催。
- * 発起人は高林兵衛、中村精、内田六郎、柳悦孝、平松実等浜松関係者。
- 4月 外村吉之介、柳悦孝、西ヶ崎工房から袋井町大門に転出。
- 9月 芹沢銈介(当時静岡市在住)、東京に転出、東京・蒲田に工房を構える。
- 昭和10年(1935年)
- 8月 誠心高等女学校の工芸部主催、芹沢銈介を招いて個展と染色講習会開催。
- 昭和11年(1936年)
- 6月 浜松民芸運動十周年と日本民藝館開館を記念して、浜松民芸同好会主催「日本民藝品展覧会」が浜松商品陳列所で開催。
- * 同好会は内田六郎、高林兵衛、中村精、平松実、山本気太郎、吉沢純道。既に「日本民藝美術館」は閉鎖、高林、平松、中村、内田所蔵品を主に展示。
- 6月 中村精『浜松と民藝』(私家版)を発行。
- * 10年にわたる遠州の民芸運動について執筆したもの。
- 10月 東京・駒場に「日本民藝館」開館(10/24)。
- 昭和13年(1938年)
- 10月 浜松市常盤町に遠州病院開院。
- 昭和14年(1939年)
- 4月 中村精、慶応義塾大学に招聘され、商工学校の教員になる。
- * 鈴木直之『幻の日本民藝美術館——遠州の民芸運動とその群像』(種月文化集団、1992年)を基本に、『民藝四十年』(岩波文庫、1984年)、『教育と民芸につくした中村精』(浜松読書文化協力会、1995年)、『遠州民芸運動の資料展』(遠州民芸同好会、1991年)なども参考に、黒田が作成した。

→草創期の不運／キーマン集散・離脱、試行錯誤

大正15年(1926年)

『日本民藝美術館設立趣意書』発表後、浜松市在住の**中村精**が受け取る。

昭和2年(1927年) **柳宗悦**が**浜松市**(中村家)に招かれ小講演(1/12)。

翌日(1/13)、柳宗悦を積志村(現浜松市有玉)の高林兵衛邸に案内。

昭和3年(1928年) 柳宗悦ら、上野公園の御大礼博覧会に「**民藝館**」を出展。

建築は**高林兵衛**が**遠州の大工**や**瓦職人**を連れて上京し陣頭指揮。

昭和6年(1931年) 高林邸内に「**日本民藝美術館**」開館。→**約2年で閉館**

昭和7年(1932年) 高林出資の**民芸店「みなと屋」**銀座に開店。**2年で閉店**。

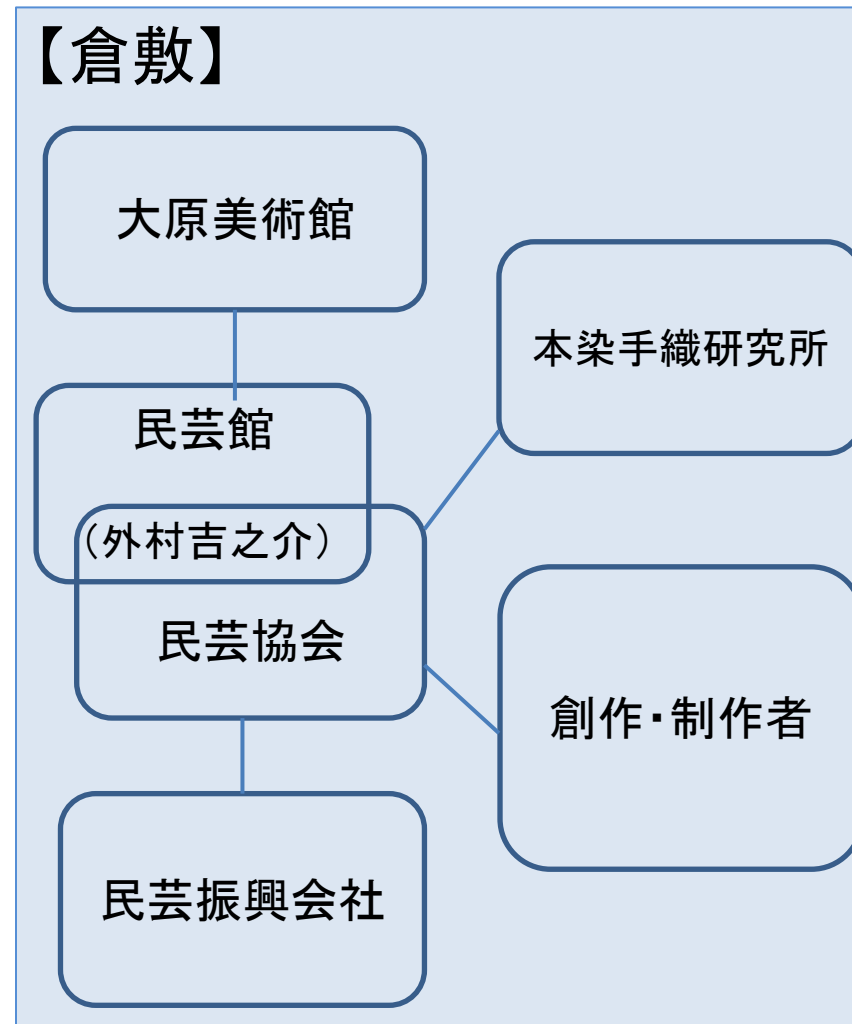
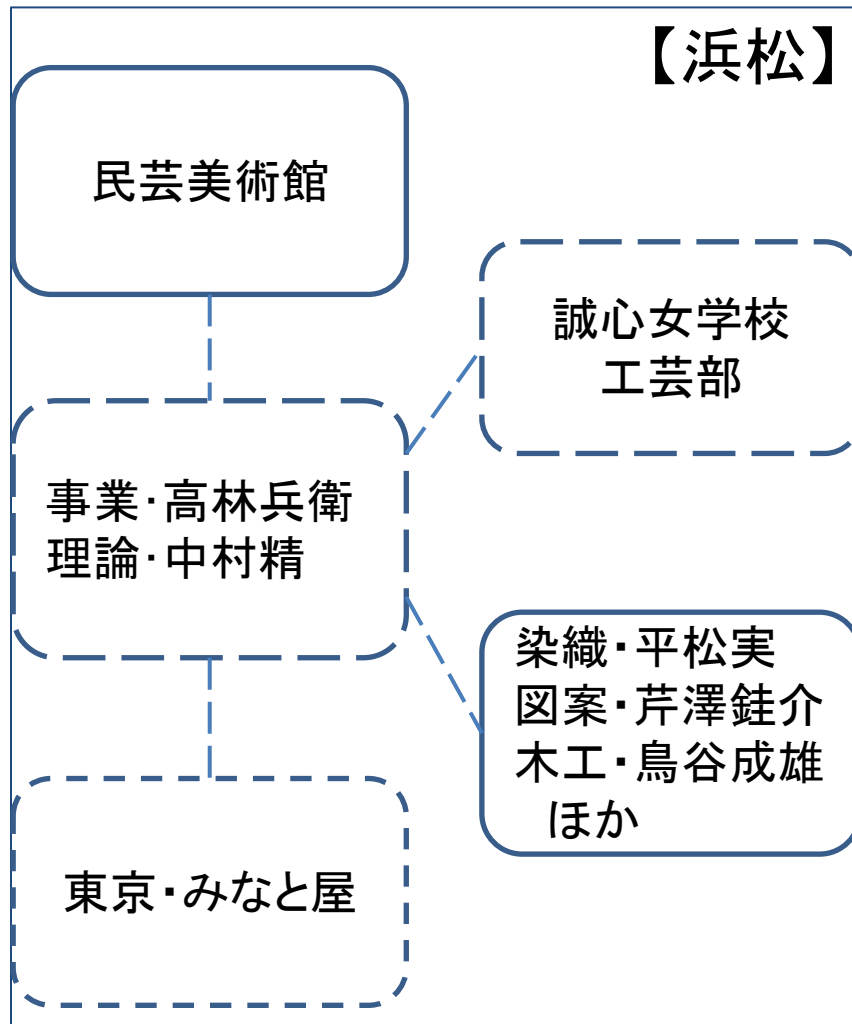
積志村に**西ヶ崎工房**を設置(外村吉之介、柳悦孝の染織の仕事場)。**2年で移転**。

このころ、**高林兵衛**は民芸運動を離れ、**農村医療制度確立**に打ち込む。

昭和9年(1934年) **芹沢銈介**(当時静岡市在住)、**東京・蒲田**に転出。

昭和14年(1939年) **中村精**、**慶応義塾大学**に招聘される。

→事業構造の未構築(プロデュース&販売機能)



→今後の研究展開・・・

- ・民芸運動の事業構造
- ・民芸運動とデザイン運動

県内版

ゆりの実
横井 美智子(菅田市寺倉)



きょうの天気 2日

	朝	昼	夜	天気	気温
浜松	☀️	☀️	☁️	☔️	20/21
天竜	☀️	☀️	☁️	☔️	20/21
北遠	☀️	☀️	☁️	☔️	20/21
磐田	☀️	☀️	☁️	☔️	20/21
掛川	☀️	☀️	☁️	☔️	20/19
御前崎	☀️	☀️	☁️	☔️	10/21
奥大井	☀️	☀️	☁️	☔️	10/20
静岡	☀️	☀️	☁️	☔️	10/21
三島	☀️	☀️	☁️	☔️	10/21

※ 6-24時の最高・最低気温(%) (気象協会調べ)

収集の逸品
「柳宗理特
東京・日本民
東京・駒場の
芸館で、特別展
理の見てきたも
写真」が開か
る。二十一日ま

浜松の民芸運動



「トン」「カタン」。
工房に手機の小気味よい
音が響く。百年を経ると
いう織機は使い込まれ
て、木枠の角が丸くすり
減っている。織りかけの
テーブルセンターの端に
目を凝らし、縦糸、横糸
をあやなしていく平松久
子(左)。細やかな手足の
動きを一人の研究者が追
う。

静岡文化芸術大学アザ
イン研究科教授の黒田宏
治(右)が、浜松の民芸運
動のルーツともいえる
「ざざんざ織」の工房あ
かね屋(浜松市中区中島)
を訪ねたのは、まだ園さ
が続く九月初旬だった。



ざざんざ織の絹糸は、
双子の蚕が入った玉
繭から紡ぎ出す。二本の
糸が絡み合ったため節があ
り、太かったり細かったり。
糸自体のムラが持ち
味となっていて、独特の風合
いを生む。大正の末まで
綿布を織っていた義父の
実が、昭和の不況の中、
民芸運動を提唱した思想
家・柳宗悦との浜松での
出会いを通して発案し

第一部 1 二本の糸



黒田には一つの思いが始まっていた。機械が熟えなかったと、思っている。発案のきっかけは、昭和十四年前のことだ。



東の手に取って代わり、の製は、柳こそない。久子にし、この生懸、や、安、み、柳

紡ぎ続ける実用の美

浜松の民芸運動の起
手機に向かう平松久
市中区の工房「あかね

